

担当教員：松崎寛 (matsuzaki.hiroshi.fp@u.tsukuba.ac.jp)

いずれの実習に関しても、9月16日(金)までに、メールで松崎に「学籍番号」「氏名」「これまでの日本語学・日本語教育学関係授業の履修状況」を書いて申し込むこと。履修の可否を後日連絡するので、その後履修登録をすること。

◆AE14C43「日本語教育国際研修Ⅰ」(マレーシア) 取得単位：3単位

- ・今年度は1月に渡航して、現地の大学や中学校で授業見学および教壇実習等を行う予定
- ・国際交流基金「大学連携日本語パートナーズ派遣プログラム」の助成を受けており、航空券や宿泊費に関わる補助金、一人当たり17万円程度が支給される予定(要事前立替)
- ・OSSMA、空港往復交通費(日本・現地)、生活費等は自己負担(5万円程度か)

●機関名：マレーシア工科大学(UTM)、Language Academy, Faculty of Social Sciences and Humanities, University of Technology Malaysia

●担当者：クマラグル・ラマヤ(Kumaraguru Ramayah)先生、ロー先生

●受入上限数：4名

●主な内容：(詳しい曜時限等は10月以後にならないと確定しないとのことです)

2023年1月6日(金) 入国

1月9日(月)-13日(金)：実習オリエンテーション、マレーシアにおける外国語教育に関する講義の受講、UTM授業見学、教案書き、教材作成

1月16日(月)-18日(水)：UTM教案書き、教材作成、教壇実習および反省会

1月19日(木)-21日(土)：中学校授業見学

1月23日(月)-26日(木)：中学校授業見学、教案書き、教材作成、教壇実習および反省会

1月27日(金)：「文化交流会」への参加および日本文化紹介(1月28日(土) 帰国)



●**成績評価**：事前学習から実践時までの経験・反省会及び、派遣先の大学の先生方からの指導に基づき、最終的に報告書（A4版15ページ程度）を提出する。この報告書とUTMから送られる評価票を以て本授業の評価を行う。

●**履修条件**：以下のような資質を備えた人材が望ましい。

ア 海外の日本語教育機関における日本語教育に対応できる基礎力

イ 日本文化の紹介を通じた現地の人たちとの交流に興味があること

ウ 現地での学びや体験の情報を積極的に日本へ発信する意欲：マレーシア滞在中、参加者各自が毎週、現地レポートのツイートを行う（それを学類公式ツイッターでリツイートする）。さらに、グループで1つ、日日ウェブサイト「海外レポート」の記事を執筆する。

●**新型コロナウイルス関連情報**：

- ・日本入国時の、出国前72時間以内の陰性結果証明の提出は、9月7日以降、不要となった
- ・医療保険（最低保障額20,000USD）加入義務は解除されたが、万が一の場合を考え、新型コロナウイルス関連の治療・入院費用をカバーする任意保険に加入しておくことが望ましい。
- ・日本→（空路）→シンガポール→（陸路）→マレーシア、でUTMに行くため、両国のコロナ関係の入国制限措置や行動制限措置に従う必要がある。

【シンガポール】

入国時パスポートの有効期限は最低6ヶ月以上。入国後の隔離免除となるためには、シンガポール政府が認めるワクチンを完全接種し、有効なワクチン接種証明書を提示することが必要。政府指定アプリをダウンロードし、出発3日間以内に登録・提出・承認を受けること。

<https://www.tokutenryoko.com/news/passage/12874>

【マレーシア】

ワクチン接種状況は不問。政府指定アプリを出発前にダウンロード・登録すること。

<https://www.tokutenryoko.com/news/passage/11229>

◆AE14F23「日本語教育インターンシップ I」（スロベニア・オンライン）

取得単位：3 単位

- 機関名：スロベニア共和国リュブリャナ大学文学部アジア研究学科日本研究コース
- 担当者：守時なぎさ先生、クララ・フルバティン先生
- 受入上限数：3 名
- 期間：2022 年 10 月～2023 年 1 月中旬、2023 年 2 月中旬～2023 年 5 月末 の大体 16-21 時

●主な内容：

「現代日本語 3（学生約 15 名予定）」の授業の枠組みの中で、遠隔による日本語教育実習を行う。実習の内容は、学習支援・リモート授業、学習者の自律学習の環境を作るための教材作成と学習者とのインターアクションを通じた教材の修正であり、これらの実習活動を通して、日本語教育・日本語学習に関する体験を積み、考察を深めることを目的とする。

○「現代日本語 3」は、日本研究の 3 年生を対象にした授業。冬学期週 4 コマ、夏学期週 3 コマ（1 コマ 90 分）行われる。終了時の受講生のレベルは、JLPT の N2 程度。使用教材は『上級へのとびら』だが、学生の日本語力強化や語彙学習をねらって、教材の他に自作の文法説明、補助教材、練習問題、生教材（動画や記事など）を用いる。

1. 授業参加および教壇実習【見学・授業参加（10～1 月）】

教員が教える授業にリモートで参加し、コメント、評価を行う。

【教壇実習 1（12～1 月）】学習者の学習状況を観察しながら、学習者に必要な内容を教える。

内容は文法練習・発音練習・語彙練習・漢字練習・追加的トピックなど。1 回につき 10 分程度、計 3 回、実習校教員とのミーティング時にフィードバックを行う。

【教壇実習 2（3～5 月）】チームティーチングの一員として『上級へのとびら』をコースの流れの中で教える。1 時間 x3 回、オンラインを想定、ミーティング時にフィードバックを行う。

2. 『上級へのとびら』の補助教材作成



【練習問題作成】文法・語彙・漢字などの追加練習を作成。

【練習問題添削・修正】学習者が提出した練習問題を添削。

実習校教員との相談のもとに練習問題を修正する。

3. スピーチへの参加

【ビブリオ・バトル（11月）】発表原稿のチェック、日本語指導、発表へのコメント。多読と効果的なスピーチにつなげる活動。

【卒業論文中間発表（5月）】発表原稿のチェック、日本語指導、発表へのコメント。日本語での卒論口頭発表につなげる活動。

●授業時間：冬学期：金曜 18:20-20:00（日本時間）、夏学期：木曜 17:30-19:10（日本時間）

その他：適宜ミーティング

時期・活動時間	担当	内容
2022.10 (1h)	守時	▶ 活動の目的。内容説明。 ▶ 日本語学習とインターネット学習 ▶ 「現代日本語 3」におけるインターネット学習の位置づけ ▶ 『上級へのとびら』の説明とこれまでのインターネット学習の経緯説明
2022.10(1h)	守時・ クララ	受講学生・教員と顔合わせ
2022.10～(30h)	守時	▶ 各課ごとにリモート授業見学、活動参加、コメント
2022.10～(24h)	守時	▶ ミーティング(活動内容の確認、教壇実習へのフィードバック等)
2022.11(9h)		本の紹介:発表原稿のチェック、日本語指導、発表へのコメント
2022.11～(12h)	守時	▶ 各課毎の補助教材作成。
2022.12～2023.1 (1h)	守時	▶ 教壇実習 1(計 3 回)
2023.3～5(3h)	守時	▶ 教壇実習 2(計 3 回)
2023.5(9h)		卒業論文中間発表:発表原稿のチェック、日本語指導、発表へのコメント

● 活動時間

1. 授業参加および教壇実習 60 時間（課外学習 20 時間）
 2. 補助教材作成・修正 12 時間（課外学習 20 時間）
 3. スピーチ活動参加 18 時間（課外学習 5 時間）
- 計 90 時間（課外学習 45 時間）

● 成績評価：

- (1) 日日サイト「ダウンロード」 (http://www.japanese.tsukuba.ac.jp/useful_sites/)
「海外語学研修・インターンシップ申請書・活動報告書」の申請書を事前に提出する。
- (2) 毎月メールで松崎に活動報告を行う。
- (3) インターンシップ終了後、「活動報告書（「研修・実習内容」「研修・実習の成果」「まとめおよび今後の課題）」を提出する。

◆「日本語教育企業研修」（AE14F13、3単位、秋ABC、応談）

●企業名：日本 東京都渋谷区 ブレイン・グループ（三修社）

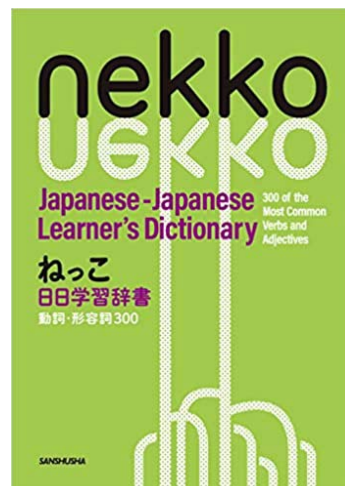
株式会社三修社 | メディア開発部・製作部

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 2-2-22

Tel. 03-3405-4511 Fax. 03-3405-4522

<https://www.sanshusha.co.jp>

担当者： 田中由紀 tanaka_y@sanshusha.co.jp



●実施期間：2023年1月中旬-3月中旬（予定）

●最大募集人数：6名（3・4年生優先／JE生・留学生歓迎）

●内容：辞書プロジェクトへの参加を軸としたオンライン企業研修

●宿泊・交通費：不要。通信費用は各自負担

【概要】

新型コロナウイルス感染リスク・健康リスク対応で、世界中で生活の枠組みが大きく変容し、企業の就業スタイルも変容しています。今回の研修先であるブレイン・グループでは、早い時期からリモートワークを取り入れ、今後リモートワークやオンライン化が推奨されていく方向で動いています。業務自体は完全リモートが通常業務であり、社会全体としてもこの流れは不可逆です。これからの社会での新しい働き方を体験できる機会として、今回のオンライン企業研修は、非常に価値ある体験となることでしょう。

今回令和4年度も、昨年度に引き続き、実際に三修社で進行中の『ねっこ 日日学習辞書』作成プロジェクトに関わる形のプログラムをご用意いただいています。他大学の学生さんとの協働プロジェクトを予定しています。

【条件】

リモート研修となるので、PCがあり、ネット環境が整っていることが条件。ファイルのやり取りに際して、セキュリティ面にも注意が必要。

【事前学習】

『ねっこ 日日学習辞書』を各自に送付しますので、読み込んで、辞書の性格を把握しておいてください。 <https://www.youtube.com/watch?v=0QfKjn3RVkw>（紹介動画）

<https://www.amazon.co.jp/%E5%8B%95%E8%A9%9E%E3%83%BB%E5%BD%A2%E5%AE%B9%E8%A9%9E300-Japanese-Japanese-Learners-Dictionary-Adjectives/dp/438405761X> にサンプルあり

【研修期間中】

辞書プロジェクトを中心に、日本語教材の編集を体験してもらう予定です。実際に走っているプロジェクトにかかわってもらいます。